

青少年育成坂町民会議

あいさつパレード・総会

5月14日(日)に4年ぶりの開催となるあいさつ運動推進パレードが開催され、パルティ・フジ坂から町民センターまで、町内の各種スポーツ少年団や町民約550人が元気よく行進しました。

パレードに引き続いて、青少年育成坂町民会議総会が開催され、青少年の心身ともに健やかな成長を願って、令和5年度の各事業計画等が承認されました。

また、次の方々が長年にわたる青少年健全育成活動の功労者として、総会時に表彰されました。

青少年育成功労者
(功労者2名・1団体)
上田 敏恵さん
大岡 武夫さん
M's オリジナルフラ



▲前列左から 大岡さん、上田さん、M's オリジナルフラ

第28回「青少年の主張」発表会

小中学生による第28回「青少年の主張」発表会が開催され、日頃子ども達が感じている素直な気持ちに、会場の聴衆は熱心に聴き入っていました。

発表者

大岡 凌河君 (横浜小学校6年)
埜 花音さん (坂中学校2年)
田下 翠さん (坂中学校3年)
※渡邊みなみさん (坂中学校1年)
は当日欠席です。



▲左から 大岡君、埜さん、田下さん

おばあちゃん元気

横浜小学校 六年
大岡 凌河



「おばあちゃん元気。」
と、ぼくは遠くでくらすおばあちゃんに時々電話をかけます。そして、元気そうな声を聞くと安心します。ぼくの祖父母は三人いますが、岩国の田舎で、ねことくらすおばあちゃんには、八十才で腰が弱く心配になることがあります。コロナ禍で会う回数が少なくなり、夏休み以来会っていません。たのですが、冬休みに会うと、前会った時より腰が曲がったかな、かみの毛が白くなったかなと、年をとったように見えて少し心配になりました。夏休みに帰省した時、

「次はいつ会えるかわからないから、お年玉はあげておくれ。」
と、早くお年玉をもらいました。ぼくは、うれしい反面、心配になりました。また、一緒に神社にお参りした時、階段を上がるのが大変そうで、母や兄が支えてあげていました。それから、物忘れも目立ちます。心配して兄といろいろ質問してみました。日付もちゃんと答えられたので、ひとまず安心しました。でもこれから先のことを考えると心配は続きます。

働くころには大変な世の中になっていくのかなと思いましたが、いろいろ挙げてお年玉をもらいましたが、難しく今のぼくにはできないと思います。きつと世の中の人達も一人できることはないかと考えると一人一人が集団となって社会が形成されています。だから、社会全体の課題を解決するためには、一人一人が力を合わせていかなければいけないのではないかと思います。では、今のぼくにできることは何か、三つ考えてみました。

二つ目は、町内で会ったお年寄りの方に優しくすることです。あいさつをしたり、電車で席をゆずったり、ささいなことでもお年寄りに関わっていいことだと思います。三つ目は、ぼくの祖母を大切にすることです。家が遠いので、なかなか会えませんが、手紙を書いたり、電話をしたりして、ぼくの元気を分けてあげたいです。だからぼくは今日も、「おばあちゃん元気。」と、電話の向こうに元気な声をとどけます。

あの日から...

坂中学校 一年
渡邊 みなみ



命について、ふと考える時、私はいつも、平成三十年七月豪雨での出来事を思い出します。

私の家は、母、父、私、妹の四大家族。少し離れた所には、祖父が一人で住んでいました。あの日、私たちは避難が遅れ、自宅待機をしていました。次の日になると、祖父の家の近くまで土砂がおそってきていました。これからどうなるのか、不安ときようなる感じがしていました。幸いにも自衛隊が到着し、私たちは早めに救助してもらえました。

救助されている時、母が自衛隊の方に、「私の父を早く救助してください。」とお願ひしている声が聞こえてきました。自衛隊の方も了承してくださりました。祖父に連絡をしましたが、しかし祖父は、「だめだ、ソラを放ってはいけない。」と言って避難しませんでした。ソラは、祖父が飼っている犬のことです。これから避難しようとしていた父の家族でも犬を飼っており、けんかになつて、めいわくをかけるかもしれないと思っ